



石巻西高実況中継

～学校の情報や生徒の様子をリアルタイムで家庭に届けます～

平成28年11月28日 第45号

発行者：校長 伊藤 俊

「世界津波の日」高校生サミット 宮城スタディーツアー ー若き防災大使たちー

平成28年11月23日、24日



〔11月23日 大曲仮設住宅〕



小野会長さんの講話



〔11月23日 日日新聞 武内常務さんの講話〕



〔11月24日 石巻Gホテル 参加者全員〕

平成27年3月に仙台で開催された国連防災世界会議を経て、11月5日が「世界津波の日」に制定されたことを受け、11月25日と26日に高知県黒潮町において「世界津波の日高校生サミット in 黒潮」が開催されました。その事前プログラム（スタディーツアー）として宮城県と宮城県教育委員会が主催し、サモア、モルディブ、フィジー、ミクロネシア、パラオの海外高校生35人を西高にお迎えし、英語研究部6名の皆さんと顧問の青山ななこ先生がお世話役として2日間行動を共にしました。23日は1年生の高橋乃愛さんと及川晴楓さんが海外高校生と同行し、被災地を回りながら当時の状況を英語で説明しました。海外高校生は小野会長さんの「鯉のぼり」の話や武内常務さんの「壁新聞」の話に真剣に耳を傾け、活発に質問していました。実は大曲仮設住宅の小野会長さんが講話の最後に前日22日の津波警報のことを触れるべきかと専属通訳の方に尋ねました。通訳の方も迷っていましたが、小野会長さんは正直に伝えました。するとほぼ全員がそのことをすでに知っていたのです。表情からは国を代表してきた「覚悟」のようなものが窺えました。次の日24日の朝も同じように緊急地震速報が流れたのですが、海外高校生は冷静だったようです。24日は高橋さん及川さんの二人に加え、1年生の永沼梓沙さん、木村有希さん、2年生の阿部明日菜さん、北村透花さんも参加し、石巻Gホテルで防災に関して英語で「意見発表」「情報交換」を行いました。本校の6人も海外高校生も「若き防災大使」のようでした。丁度十日前に本校単独で行った「国際高校生フォーラム in 石巻西高」を主催者側も参考にしたのかな、何より本校の6人がとても頼もしいなと思いました。

ーHigh School Students Summit on "World Tsunami Awareness Day" in Kuroshioー

（「世界津波の日」高校生サミット in 黒潮）平成28年11月25日、26日

「語り部」として知られている2年生の相澤朱音さんですが、今回は被災地を代表して「英語で」スピーチしてきました。日本語でいくつか抜粋します。○震災のことを話すとき私は笑います。笑うことを我慢すると泣いてしまい何も話せなくなるからです。○私はまだ気持ちの整理をしている途中です。私と同じ気持ちの方が多くいると思います。○私たちの暮らしは少しずつ元に戻っています。しかし、心の復興にはもっと時間が必要です。○私は自分の心の復興のために語り部をしています。○どんなに辛くても生きなければなりません。○何気ない日常がどんなに尊いか感謝すべきです。

辛いことを乗り越え、命の大切さを語る相澤さんの言葉には計り知れない力を感じます。